

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：34419

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00310

研究課題名（和文）近代寺院資料の基礎的研究 宝珠院所蔵資料を起点として

研究課題名（英文）Basic research on modern materials in temples: starting from the materials in Hoshuin

研究代表者

藤巻 和宏 (FUJIMAKI, Kazuhiro)

近畿大学・文芸学部・教授

研究者番号：00468878

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は2019～2021年度の3箇年の予定であったが、コロナ禍の影響で2020年度から寺院での資料調査を行うことが難しくなり、大幅に予定を変更し、2度の期間延長をした。資料調査ができなかった時期は、近代仏教史についての先行研究を把握することに時間を割くとともに、寺院資料調査に不可欠な文献資料学についての研究集会と、近代仏教史研究の中でも重要な課題である仏教と戦争との関わりについてのシンポジウム「戦時下の仏教」を企画・開催した。5年にわたり、資料調査とその整理（目録化）を中心としつつ、近代仏教史の研究動向の把握と関連企画の開催という複数の方角から、研究課題を進めることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

各地で寺院資料の悉皆調査がおこなわれており、そのほとんどが前近代の寺院の実態を明らかにすることを目的としているなかにあつて、本研究課題は近代の資料に注目するものである。特に明治前期は、神仏分離や一宗一管長制により大きな変革を迎えた時期であり、また、昭和戦時期は、国策協力のために真言宗諸派が大真言宗として合併した時期である。これらの時期に注目することは、宝珠院という個別寺院の歴史を見る上で重要であるのみならず、学問史、宗教史、仏教史、そして大阪市という地域のなかで宝珠院を捉え直しつつ、明治政府の宗教政策や戦時下の総力戦体制を明らかにするための重要な事例として位置づけることが可能となる。

研究成果の概要（英文）：I had planned to conduct this research project over a three-year period, from FY 2019 to FY 2021. However, due to the Corona disaster, it became difficult to conduct material research at the temple after FY2020, so I changed my original plan and extended the project period twice.

During the period when I was unable to conduct material research at the temple, I devoted my time to understanding previous research on modern Buddhist history. At the same time, I planned and organized research meetings on documentary sources. I also planned and organized a symposium on the relationship between Buddhism and war, one of the most important themes in the study of modern Buddhist history.

My research projects over the past five years have centered on researching and organizing (cataloging) materials at temples. At the same time, I was able to advance the project from the perspective of understanding trends in the study of modern Buddhist history and organizing related projects.

研究分野：日本文学

キーワード：寺院資料 文化財保存 真言密教 戦争 戦時教学 宗教統制 書誌学 文献学

1. 研究開始当初の背景

本研究課題開始以前に2度の科研費助成(挑戦的萌芽研究「宝珠院所蔵資料の基礎的研究」2012-2014年度、基盤研究C「宝珠院所蔵資料調査を基盤とした寺社圏の研究」2015-2018年度)を受け、大阪府大阪市北区に所在する宝珠院(菅原山天満寺宝珠院)という真言宗寺院の資料調査をおこなってきた。調査手法は、所蔵される文献資料のすべてを対象とする「悉皆調査」である。典籍の書写・校合・注釈や貸借、教理の伝授・講説、法会の執行といった宗教的・学問的活動の痕跡を所蔵資料からうかがうことで、時代とともに移り変わる知的営為の体系やその背後の人的・思想的ネットワーク等を復元、把握することを目的としている。

こうした悉皆調査チームが対象とする寺院の所蔵資料は、多くが前近代のものである。調査メンバーはいずれの分野であっても前近代を専門とする研究者が圧倒的に多く、また、調査目的も前近代における寺院活動の実態解明が主である。そのため、所蔵資料のなかに近代のものが含まれることがあってもさほど重視されず、調査者もその扱いに苦慮しているというのが現状である。

私は各地の寺院調査に参加し、また宝珠院調査を進めてきた過程で、近代の寺院資料の多様性・重要性に気付いたことが本研究の構想に至ったきっかけである。

大学院生時代に初めて参加した長野市の金峯山長谷寺(信濃長谷寺)には、昭和戦時期の資料が数十点所蔵されていた。私を含め、中世・近世の文学・史学を対象とする研究者チームによる調査であったため、前近代資料を調査することにエフォートの大部分を費やし、近代資料は参考程度にとどめざるを得なかった。しかし、寺院が地域の国威発揚・国策協力の拠点となっていたことがうかがえる資料であり、それまで考えたこともなかった近代の寺院のあり方という問題意識が芽生えた。同種の資料は京都市の随心院を調査した際にも目に留まった。例えば真言宗の大寺院が連携して敵国降伏を祈る法会の開催を記録したもの等、仏教界が戦争に動員されたことがうかがえる生々しい記録に接し、この時期の寺院の置かれた環境という問題を本格的に検証する必要性を強く感じるに至った。

宝珠院にも昭和戦時期の資料が存在し、当時の真言宗寺院のなかで、あるいは大阪市のなかで、いかなる形で戦争に巻き込まれていったのかをこれらを調査・分析することにより明らかにすることができると思われた。また、明治期の資料も豊富にあり、活字印刷されたもの(教科書・雑誌・新聞や大蔵経等)のほか、明治政府による神道国教化・神仏分離に関わる資料(教部省による教導職への任命状等)や、政府の進める一宗一管長制により変化を余儀なくされた真言宗寺院の実態を知ることのできる資料(本山仁和寺の庶務依頼状等)、あるいは檀家組織の活動内容をうかがうことのできる資料等、写本(手書き資料)も多い。

一方で、私は学問史という観点から近代学問の成立と編成というテーマの研究を進めていたこともあり、寺院資料の調査・分析から、特に学問分野としての宗教学・仏教学の成立と展開を見てゆく際に重要な発見があるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

各地で寺院資料の悉皆調査がおこなわれており、そのほとんどが前近代の寺院の実態を明らかにする目的としているなかであって、本研究課題は近代の資料に注目するものである。

特に本研究で採り上げる、神仏分離や一宗一管長制により大きな変革を迎えた明治前期と、国策協力のために真言宗諸派が大真言宗として合併した昭和戦時期は、宝珠院という個別寺院の歴史を見る上で重要であるだけでなく、学問史、宗教史、仏教史、そして大阪市という地域のなかで宝珠院を捉え直しつつ、明治政府の宗教政策や戦時下の総力戦体制を明らかにするための重要な事例として位置づけることが可能となるはずである。

寺院資料調査に携わる研究者の多くが近代資料に興味を持たず(あるいは扱いに苦慮し)、一方、近代を対象とする研究者は寺院資料まで調査が及んでいないというのが現状である。これまでの寺院資料調査の成果を活かし、近代における寺院のあり方の解明を目指すところに、本研究課題の独自性と創造性がある。

3. 研究の方法

宝珠院に所蔵されるすべての文献資料の目録を完成させることが本研究の基盤となる。すでに全点の調書を取り、目録作成に必要な部分の写真撮影も終え、一通りのデータ化・テキスト化も済んだ状態で点検作業を進めてきた。本研究課題においては、目録から近代資料を対象とする目録を抽出・作成し、これを基礎的データとする。そして、年代や書写・刊行者、内容等によって分類・整理し直し、まずは近代資料を概観できる状態にする。その上で、特に注目する明治前期と昭和戦時期の資料を中心に、詳細な書誌情報の記録と全冊撮影をおこなう。そして、これまでの調査ですでに明らかとなっている他寺院(大阪・京都・高野山・四国)との関わりや、社会的・政治的背景からの分析を進め、特に重要な資料は解題を付して翻刻紹介をする。例えば、大阪府河内長野市の地蔵寺には、昭和戦時期の「宝珠院婦人会」の活動に関わる資料が所蔵されており、宝珠院所蔵資料のみではわからない事実を知ることができる。このように、近代の宝珠院

の活動を明らかにすることのできる外部資料の探索も進め、内部資料を相対化するという作業も進める。

本研究の対象とする明治前期と昭和戦時期は、宝珠院という個別寺院の歴史を見る上で重要であるだけでなく、学問史、宗教史、仏教史、そして大阪市という地域のなかで宝珠院を捉え直し、明治政府の宗教政策や戦時期の総力戦体制を明らかにするための重要な事例として位置づけることが可能となる。宝珠院に所蔵される近代資料の調査・研究から、新たな寺院史・宗教史・学問史・地域史を構築するための一助としたい。

4．研究成果

本研究課題は2019～2021年度の3箇年の予定であったが、コロナ禍の影響で2020年度から宝珠院での資料調査を行うことが難しくなり、大幅に予定を変更し、2度の期間延長をした。それにより、研究期間は2019～2023年度の5箇年となったが、資料調査を実施できたのは2019年度と2023年度のみであった。

資料調査ができなかった時期は、近代仏教史についての先行研究・研究動向を把握することに時間を割くとともに、寺院資料調査に不可欠な文献資料学についての研究集会「第3回 日本宗教学文献調査学合同研究集会」(2021年2月20日、8人の科研費による共同開催、オンライン)と、近代仏教史研究の中でも重要な課題である仏教と戦争との関わりについてのシンポジウム「戦時下の仏教 近代仏教研究からの視角」(2022年4月23日、仏教文学会との共同開催、オンライン)を企画・開催した。これらの活動により、寺院資料調査における書誌学・文献学的手法の共有と一般化を進めることと、前近代資料に特化しがちな寺院資料調査への新視点の導入を進めることができた。

資料調査が可能であった2019年度と2023年度には、新たに出現した資料について書誌記録を取るとともに、これまでの調査で見落とししていた書誌的事項の点検作業や全点撮影に時間を費やした。目録の完成には至らなかったものの、今後の調査を進めやすい環境を構築できたものと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 藤巻和宏	4. 巻 18・19合併
2. 論文標題 横山重と時局 研究の政治性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 上方文藝研究	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤巻和宏	4. 巻 32（1・2）
2. 論文標題 戦時下の古典研究 横山重の「本地物」研究の背景	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文学・芸術・文化	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤巻和宏	4. 巻 16
2. 論文標題 『ハニ秘記』のゆくえ 『大和志料』編者の引用文献はなにか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 渾沌	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤巻和宏	4. 巻 48
2. 論文標題 「戦時下の仏教」という視角	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 51-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 藤巻和宏
2. 発表標題 縁起・神話・由緒の生成 カノン化の理論と構造
3. 学会等名 伝承文学研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤巻和宏
2. 発表標題 橿原神宮の縁起言説 皇紀二千六百年の神武天皇
3. 学会等名 寺社縁起研究会・関西支部・9月例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤巻和宏
2. 発表標題 戦時下の人文科学研究と国策 精神科学研究奨励金と日本諸学振興会
3. 学会等名 『学知史から近現代を問う / 読み替える』第2回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤巻和宏
2. 発表標題 菅原山天満寺宝珠院所蔵の三宝院流「後三部抄」関連資料
3. 学会等名 第4回 寺院資料調査研究報告会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤巻和宏
2. 発表標題 保守×愛国×神話 「美しい国」「クールジャパン」という欺瞞
3. 学会等名 神戸 神話・神話学研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤巻和宏
2. 発表標題 南北朝正閏問題と三種の神器 皇国史観と學術の間
3. 学会等名 歴史叙述とその文献 研究会・第7回例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤巻和宏
2. 発表標題 日本学問編成史という視角 前近代から近現代へ
3. 学会等名 同志社大学国文学専攻院生部会講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 清川祥恵、南郷晃子、植朗子、野谷啓二、上月翔太、田口武史、里中俊介、山下久夫、斎藤英喜、藤巻和宏、鈴木正崇、平藤喜久子、横道誠、庄子大亮、Jose Luis Escalona Victoria、鋤柄史子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 368
3. 書名 人はなぜ神話 ミュトス を語るのか 拡大する世界と 地 の物語	

1. 著者名 中山一麿、山崎淳、渡辺麻里子、川端咲子、林久美子、須藤茂樹、向村九音、藤巻和宏、有瀬光崇、中前正志、本井牧子、木下智雄	4. 発行年 2020年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 504
3. 書名 近世仏教資料の諸相	

1. 著者名 田中聡、斎藤英喜、山下久夫、星優也、西田彰一、沈熙燦、中野洋平、藤巻和宏、松川雅信、三ツ松誠、高田雅士、黛友明、永岡崇、鎌倉祥太郎、栗田英彦、三浦佑之、末次智、養島栄紀、平藤喜久子	4. 発行年 2024年
2. 出版社 有志舎	5. 総ページ数 432
3. 書名 学知史 から近現代を問い直す	

〔産業財産権〕

〔その他〕

『源氏物語』は「偉大な古典」か「後世への害物」か 古典と戦争から見る、学問の「有用性」の脅威 https://gendai.ismedia.jp/articles/-/96205

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	柏原 康人 (KASHIWABARA Yasuto)	九州女子大学・人間科学部・准教授	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高橋 秀慧 (TAKAHASHI Shukei)	東京大学・大学院人文社会系研究科・日本学術振興会特別研究員	
研究協力者	高山 卓 (TAKAYAMA Taku)	龍谷大学付属平安高等学校・中学校・特任講師	
研究協力者	橋本 正俊 (HASHIMOTO Masatoshi)	摂南大学・外国語学部・教授	
研究協力者	花川 真子 (HANAKAWA Masako)	京都大学・人間・環境学研究科・研修員	
研究協力者	濱田 泰彦 (HAMADA Yasuhiko)	佛教大学・文学部・准教授	
研究協力者	森 誠子 (MORI Satoko)	九州産業大学・基礎教育センター・准教授	
研究協力者	吉田 唯 (YOSHIDA Yui)	東大阪大学・こども学部・専任講師	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------